

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 5 報
千葉県農林水産部
令和元年7月11日

平均気温 20℃以下(最低気温 17℃以下)が 続くときは深水管理をしましょう

[気象と生育概況]

7月8日発表の気象庁の早期天候情報によると、関東甲信地方は向こう2週間、気温の低い日が多く、かなり低くなる可能性が予測されています。また、5月上中旬植えの各品種は冷害危険期を迎えます(表1)。

表1 冷害危険期予測(冷害危険期は記載日から6日間)

品種	植付時期	県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
コシヒカリ	5月 1日	7月15日	7月12日	7月12日	7月12日
	5月10日	7月20日	7月17日	7月17日	7月17日
アキヒカリ(飼料用米)	5月15日	7月12日頃～			
夢あおば(飼料用米)	5月15日	7月17日頃～			

6月下旬から7月上旬にかけて低温・寡照が続いたことで、幼穂形成期後の生育が緩慢となり、出穂が3～5日遅れる見込みです。4月20日植えの「ふさおとめ」の出穂期は7月13日頃から(平年並み)、「ふさこがね」は7月14日頃から(平年並み)と見込まれます(表2)。

表2 品種別の出穂期予測(実績値及び予測値により判断)

品種	植付時期	県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	7月17日	7月13日	7月13日	7月13日
ふさこがね	4月20日	7月18日	7月14日	7月14日	7月14日
コシヒカリ	4月20日	7月24日	7月18日	7月18日	7月18日
	5月 1日	7月30日	7月27日	7月27日	7月27日

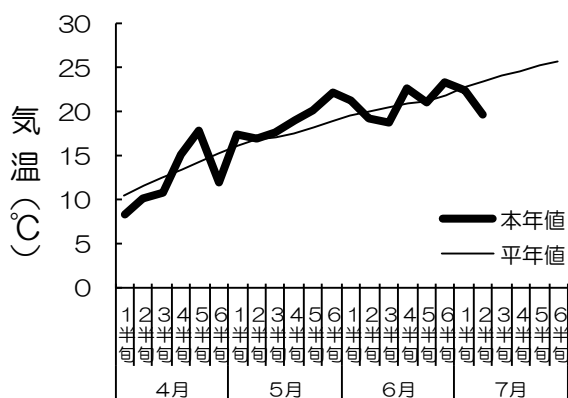


図1 日平均気温の推移(アメダス、佐倉)

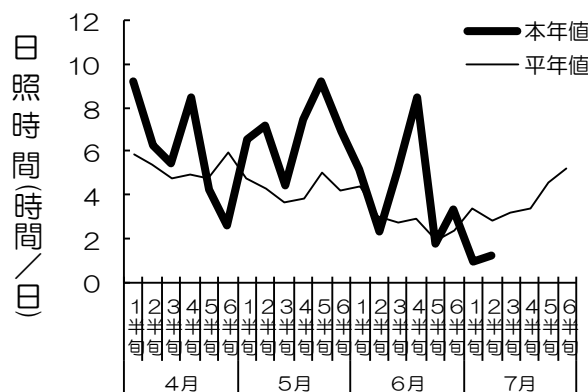


図2 日照時間の推移(アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■水管理の徹底 ～低温時には深水管理を～

5 月上旬中旬植えの「コシヒカリ」や、特に耐冷性の弱い飼料用米の「アキヒカリ」や「夢あおば」は冷害危険期を迎えます。この時期に平均気温 20℃以下（最低気温 17℃以下）が数日続くと障害型不稔が発生しやすくなります。対策として深水で管理し、株元の保温に努めましょう。

また、通常時は出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までの期間は湛水管理（※）を行い、その後は、間断かんがいに移行し、十分な水の補給による玄米品質の低下を未然に防ぎます。

なお、農業用水の利用にあたっては、かけ流しや漏水防止対策を徹底し、日頃から大切に使いましょう。

（※）自然由来のカドミウムの吸収を押せるためにも必要な技術です。

■穂肥の実施

5 月上旬に植付した「コシヒカリ」は、穂肥の時期となっています。栄養不足は、収量や品質に影響するため低温・寡照が続く場合でも生育診断（第 4 報参照）を行い生育に応じ、適期に穂肥を実施しましょう。

■いもち病の防除

「病害虫発生予察第 4 報（7 月 10 日）」によると、いもち病の予想発生量は「やや多」となっています。穂いもちを防ぐため、葉に病斑が認められたら、早めに防除しましょう。（防除薬剤は「水稻の生育状況と当面の対策」第 4 報を参照）

■斑点米カメムシ類の防除

同予察情報によると、斑点米カメムシ類の予想発生量は、大型カメムシ類が「並」、カスミカメムシ類が「やや多」となっています。大型カメムシ類の防除適期は、成虫飛来期の「穂揃期」と幼虫発生初期の「出穂 15 日後」です。

周辺より出穂の早い水田や、特に遅い水田では集中的に加害されることがあります。カメムシの発生は周辺田にも影響するため、主食用米・飼料用米いずれも適期に防除しましょう。

表3 斑点米カメムシ類の防除薬剤

収穫前使用日数	薬剤名
収穫 7 日前まで	エルサン粉剤 3DL、トレボン粉剤 DL、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、スタークル（アルバリン）粉剤 DL、ダントツ水溶剤、ダントツ粉剤 DL
収穫 14 日前まで	MR.ジョーカーEW、キラップフロアブル、キラップ粉剤 DL、トレボン MC、ベストガード粉剤 DL
収穫 21 日前まで	スミチオン乳剤、スミチオン粉剤 3DL、アクタラフロアブル

（※）農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

次回は「水稻の生育状況と当面の対策」は、7 月 25 日発行予定です。